

ステークホルダー委員会

京都大学の環境配慮活動についてステークホルダーの皆さまにお伝えするとともに、そのご意見を今後の活動に活かしていくため、ステークホルダー委員会を開催しました。

今年度のステークホルダー委員会では、京都大学の3年間の主な環境活動や環境報告書についてご意見をいただきました。様々な立場の方から多岐にわたるご意見をいただきましたが、ここでは主要なご意見と回答をまとめています。

温暖化対策についてのご意見

CO₂排出量が増えているという事実は、改善できないのでしょうか。多少の不便はあっても、日常生活にインパクトを与えるような取り組みをするぐらいでないと、構成員に危機感が伝わらないのではないのでしょうか。京都大学は市内での多量排出事業者の上位に入っています。CO₂排出量を大きく減らせるような取り組みをしてほしいです。

また、大学には様々な分野や立場の方がいるという特色もっています。その特色を活かした取り組みをすることも大切だと思います。

→本学委員の回答

環境賦課金制度を導入し、省エネ設備への投資や環境配慮行動へのインセンティブになるような取り組みを実施し、CO₂排出量を減らす努力を続けています。現在、ESCO事業で設備機器の改修などハードの対策を実施しており、それらの対策によってCO₂排出量の削減を見込んでいます。

あわせて、まずは研究の活性を下げずに省エネルギー対策ができる方法を考え、環境配慮行動(ソフトの対策)でのCO₂排出量の削減を徹底して推進していくべきだと思っています。環境配慮行動の推進には、無駄がわかるようなデータの可視化を示すこととインセンティブが必要と考え、一部の建物で環境配慮行動を通したエネルギーマネジメント手法開発の試行実験を始めています。また、構成員が自ら省エネルギー活動を宣言するウェブサイトを開設します。今後、こうした取り組みの範囲を拡大して、ハードの省エネルギー対策と環境配慮行動を推進することにより、より一層のCO₂排出量の削減を図ることを計画しています。

また大学としては、今後ますます活発になるとされる教育・研究活動の先をよく見通して、計画的に省エネルギー対策への取り組みを進めていかねばならないとも思っています。

廃棄物対策についてのご意見

レジ袋削減やマイボトルの実験など、発生抑制対策としての取り組みは評価できると思います。しかし、排出する廃棄物のリサイクルや処分方法の検討はされているのでしょうか。生活系廃棄物で排出量の多いものは何か、調べていますか。

→本学委員の回答

生活系廃棄物の内訳で多いものは、紙類、空き缶・空き瓶・ペットボトル類です。その結果から、レジ袋削減、マイボトルの取り組みは適切だと思っています。排出割合の高い感染性廃棄物や実験系廃棄物の処分は、これまでどおり適切に行っています。

京都大学のごみの分別は、どのようになっていますか。大学から多く排出される廃棄物に紙類があると思います。コピー用紙の購入量は減っていますが、何か対策はなされていますか。

→本学委員の回答

現状では、分別の方法は部局によってまちまちです。これは部局ごとに廃棄物の契約を行っているからです。

分類は主に、紙類(新聞紙、雑誌、段ボール、OA用紙、秘密書類、その他用紙)、厨芥類、廃食油、空き缶、空き瓶、ペットボトル、大型ごみ、その他、産業廃棄物となっています。

コピー用紙の削減取り組みは、次の段階で考えていきたいと思いますが、ペーパーレス会議などの試行も進めています。

環境報告書・構成員参加型の取り組みについてのご意見

環境報告書はその役割をきちんと考えられ、表現も工夫されていると感じます。ただ、学生活動についての記事が少ないように思います。学生の視点から見た取り組みや学生の読みたい内容を取り入れることで、学生に伝わりやすくなると思います。

また、環境に関する取り組みに対してやる気のある学生をうまく大学で育成、活用し、活動の場を与えるという仕組みを作ると、学生の取り組みへの参加が進むと思います。そうした「参加型」のシステムを作っておけば、入れ替わりの早い学生も様々な経験ができると思います。

→本学委員の回答

これまでの環境報告書では、総長との座談会やステークホルダー委員会の記事を掲載するなど、学生の意見を取り入れる努力をしてきました。しかし、学生とともに取り組みを進められる仕組みがまだまだ不十分であるのも事実です。今後、より良い環境報告書を作成することや環境に関する取り組みをさらに推進することを目指して、エコ宣言ウェブサイトなどで環境に関する色々な情報の蓄積を図り、それをもとに学生を含む構成員参加型の仕組みを作っていきたいと考えています。また、他大学での学生参加の取り組みについて調べ、うまく実施されているところがあれば、それも参考にしていきたいと考えています。

また、学生への環境に関する教育の機会を充実し、環境活動のできる人材を育成していくことも重要と認識しています。

ステークホルダー委員会の概要

■ 開催日 2009年6月17日

■ 構成

高月 紘(委員長、石川県立大学教授)、浅利美鈴(京都大学環境保全センター助教)、井崎宏子(京都大学生協同組合)、稲庭 篤(会社員)、大谷 賢(オムロン株)、酒井伸一(京都大学環境保全センター教授)、佐治英郎(京都大学環境安全保健機構長)、塩田一裕(京都大学施設環境部)、白川康一(京都大学医学研究科博士1回生)、鈴木靖文((有)ひのでやエコライフ研究所)、西嶋由孝(京都大学環境安全衛生部長)、根本潤哉(京都大学人間・環境学研究科卒業生)、原 強(コンシューマーズ京都)、Baiotti Luca(京都大学基礎物理学研究所特別研究員)、尾藤善直(自営)、細木京子(日本環境保護国際交流会)、堀籠 聡(オムロン株)、松井 健(京都大学農学部3回生)、水嶋周一(工学研究科修士1回生)、吉田信昭(全国大学生協同組合連合会)、吉田治典(岡山理科大学教授)、和田長利(京都市環境政策局)



ステークホルダー委員会の様子